

令和2年度

学校評価報告書

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	4段階 評価	改善策	学校関係者評価で いただいた意見等
心豊かにたくましく生きる 神戸の子供を育む	やさしく強くしなやかに	他人の痛みが分り、相手の立場や気持ちを考え、行動できる子	一人一人に応じたきめ細やかな指導に取り組む。	個に応じた指導を目指し、複数指導や少人数指導を取り入れ、家庭学習のアドバイスをしたりした。前向きに取り組む児童が増えたが、さらに定着させたい。児童理解で得た情報を全職員で共有して、指導に生かした。	3.3	研修を通して複数指導の工夫にも力を入れる。放課後学習も取り入れながら個別指導の時間を確保したい。複数指導の体制を工夫する。	
			子供たちが生き生きと安全に過ごせる学校生活を実現する。	児童の様子について状況を把握し、学校全体で共通理解した。朝会等の指導で生活のめあてを児童が意識できるようにした。生活面では、コロナ感染に対しての意識が薄れないように指導をした。大規模工事が入ったが、工事業者との連携を密にして安全に過ごせた。	3	児童の心を耕す教育を日常的に行う。めあてを意識して過ごせるように今後も継続する。感染症等予防の意識をさらに高めていかなければならない。日常生活でも徹底的に声かけを行う。	
			特別支援教育を充実させる。	関係機関との連携を図る。支援員の配置により、個に応じた指導がしやすくなった。行事の時は特別支援学級で手が足りない場合があるので、支援体制を工夫していく。校内学習支援委員会を通して情報の共有化をさらに図る。	2.9	校内学習支援委員会を活性化させ全職員で共通理解を図ったり、手立てを見つめたりする。交流学級との連携も推進していく。	多くの人が子供たちを見守り、指導しているのはよいことである。
		自らをコントロールする強い心を持った子	基礎学力を定着させる効果的な取組をする。	モジュールの時間を使い、小テスト・漢字指導など継続して行うことで基礎学力の定着につなげることができた。	3.3	年間を見通した取り組みができるよう、教材を工夫する。モジュールの時間を有効活用する。	
			協力する活動、自分で考える経験をする。	厳しい状況の中、宿泊行事が実施できてよかった。感染症等予防のため班活動などは減ったが、実行委員活動や一人一役など、学年の実態に応じて工夫しながら取り組めた。特に高学年では、児童主体の活動ができた。	3.2	コロナ禍でもできる体験活動のあり方を更に検討していく。対策を講じながら子供たちが協力したり、考えたりする活動に力を入れたい。	
	豊かな情操、知性を持ち、自らの思いを表現できる子	自らの考えを伝え合う力を育てる。	全体のための活動を経験させる。	各学級で活動に限られる中でもできることを考えて取り組めた。6年生は可能な範囲で1年生との交流を行い、行事の準備や片付けを通して最高学年としての気持ちを高めることができた。	3.2	児童が意欲的に活動を企画できるように助言する。役割分担を明確にすることで、責任をもって取り組めるよう支援を継続する。	活動に限られた1年だった。今後も見守りたい。
			（低学年）考えを伝えられるようになってきたが、まだ十分ではない。 （中学年）発表や説明の機会を充実させた。机の配置や進行を工夫した。 （高学年）会議の進行や意見をまとめる方法を学んだ。全体の場で発言しにくい児童もいた。全員が意見を広げる方法を考える必要がある。 （図書館）図書館が充実している。読書への関心が高まっている。	3.2	グループで活動したり、子供たちが話し合ったりする機会を設ける。学習したことを、普段の話し合いにも生かしていく。自分の考えや思いを、自分自身の言葉で話すことができるよう、意図的に発表の場を作る。		
		健やかな心と体を育成する。	行事を通してコロナ禍でもできることを考えたり、進め方を工夫したりすることで児童も真剣に取り組めた。行事や活動の意味を考えて取り組むようにした。一人一人が真面目に頑張ろうという姿が見られた。	3.4	どんな活動に対しても、コロナ感染防止の対応をしながら可能な範囲で全力で取り組めるよう指導・支援を継続する。		
		気持ちのかようあいさつに取り組む。	挨拶について重点的に指導をし、気持ちのよい挨拶ができるようになってきた。決まった場面や全体では挨拶ができるようになったが、個々でもできるように指導を続ける。	2.7	教師が率先して挨拶をする。マスク着用のため、声や表情が伝わりにくいが気持ちが伝わる挨拶ができるように態度面についても指導する。	声をかけても返事がない児童が気にかかる。	
			（今年度の研修テーマ） 自分の思いを表現できる子を目指して～話す・聞く・書く力をつける授業作り～	国語・道徳を中心に取り組んだ。討論の学習では、立場や状況を明確にし、意見を出し合う経験ができた。研究授業を通して短時間でも意見交換する時間をとることができ、授業改善につなげたい。	3.3	授業中だけでなく、行事や委員会活動などでも、自分の思いを伝えることができるように指導を継続する。	
地・域と安心で楽しい学校を支える築き、	学校組織力の充実と教職員の力の向上を図る。	直面している課題に関するテーマの研修に取り組めた。新学習指導要領、新しい生活様式など、まだ全体で理解を図らなければいけない課題もある。今年度は毎日の授業時間が増えたため、放課後の会議の時間設定に苦労した。	3.7	外部での学習の機会が少なくなった分、オンラインなど利用して見識を深めたい。これからも、必要な研修の時間確保に努める。	ICT化が進み、児童が機器を使いこなす様子に感心した。		
	教育活動の評価を充実させ、改善と情報発信を充実させる。	子供の様子を伝えるためにもHP更新に努めた。学校行事については定期的にHPの更新をすることができた。	3	HPについては、今後も適宜更新を継続する。			
	外部人材の積極的な活用や、副読本などの活用に取り組む。	地球っ子プログラムや盲導犬講座、農村歌舞伎の会、インターネット安全教室、命の授業、市立博物館との連携授業、学校薬剤師による薬物乱用教室など、コロナ禍だったが例年通りの活動に取り組めた。	3.6	校外学習で学ぶ機会が減少した分、外部人材による授業を有効利用し、必要な内容には積極的にいかかわっていく。	学校との交流が難しいが、新しい形の行事はないだろうか。		
	地域と協力し、豊かな子供の育ちをめざす。	今年度は中止となった地域行事が多かった。のびのびタイムはなくなった。	2	新しい関わり方が必要である。地域との交流は大切にしたい。教材内容を踏まえて検討が必要。	コロナ禍での行事のあり方を考えたい。		
家庭と協力し、豊かな子供の育ちをめざす。	休校中の家庭学習では、各家庭で学習を進める状況にあった。家庭への連絡をこまめにとり、学級通信や連絡帳などを通して学校の様子を伝えることに努めた。特別支援学級では、毎日の連絡ノートを活用して日々の様子を家庭と共有し、指導にかした。	3.5	学校運営について急な変更が多々あったが、保護者は手紙やママモルメなどをよく読み、学校に協力的な家庭が多かった。今後も同様の状況が予想されるが、正確で迅速な情報提供に努めたい。	児童の精神面への影響が心配されるが、今は落ち着いて生活しているようだ。見守りを続けたい。			